

政策評価調書（個別票①-1）

【政策ごとの予算額等】

政策名	国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献		評価方式	総合	番号	17
歳出予算額（千円）	20年度	21年度	22年度		23年度要求額	
（ 当 初 ）	20,792,176	14,189,195	13,759,335		12,674,759	
（ 補 正 後 ）	28,601,511	14,189,195				
前年度繰越額（千円）	0	0				
予備費使用額（千円）	0	0				
流用等増△減額（千円）	0	0				
歳出予算現額（千円）	28,601,511	14,189,195				
支出済歳出額（千円）	28,591,365	14,188,734				
翌年度繰越額（千円）	0	0				
不用額（千円）	10,146	461				
達成すべき目標及び 目標の達成度合いの 測定方法	（平成23年度については、アジア欧州財団（ASEF）拠出金を代表例として評価することとしている。） 【目標】 アジア欧州会合（ASEM）及びアジア欧州財団（ASEF）の目的であるアジアと欧州の相互理解の促進に貢献すること。 本施策を構成する具体的施策は以下のとおり。 1 知的、文化的、人的交流プロジェクトを通じて、多様な文化的・社会的背景を有するアジアと欧州の相互理解を促進すること。 2 我が国のイヤマーク事業を通じて、他のアジアと欧州の国々に向けて、我が国の政策や文化について広報すること。 3 レベルAの事務局経費拠出国として、ASEFの効率的・効果的な運営を推進すること。					
政策評価結果を受けて 改善すべき点						
評価結果の予算要求等 への反映状況	【予算要求】 我が国は、ASEFの事務局運営経費（拠出はASEM参加国の政治的・道義的義務）に3段階のうち最高額のレベルA（A：B：Cの比率は3：2：1）の拠出を行っている。また、ASEFはアジアと欧州の相互理解促進のための知的、文化的、人的交流プロジェクトを実施しており、同実施経費はASEM参加国・機関の任意拠出金によって賄われていることから、プロジェクト実施経費にも拠出している。我が国は、執行委員会等すべてのASEF理事会関連の委員会に委員を輩出しており、ASEFの運営に大きな影響力を有している。我が国が引き続き、ASEFに対してその国力にふさわしい貢献を示し、アジアと欧州の相互理解の促進というASEM及びASEFの目的の実現に貢献するため、事務局運営経費（レベルA）及びプロジェクト実施のための経費を要求した。 【定員要求】 アジア欧州財団に係る業務のための新たな定員要求は行っていない。					

政策評価調書（個別票①-2）

【政策に含まれる事項の整理】

政策名	国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献					番号	17		(千円)	
	予 算 科 目								政策評価結果等 による見直し額	
	整理番号	会計	組織／勘定	項	事項	22年度 当初予算額	23年度 要求額			
対応表において● となっているもの	A	1	一般	外務本省	国際分担金其他諸費	経済協力に係る国際機関等を通じた経済・社会分野に係る国際貢献に必要な経費	12,919,360	11,756,397		
	A	2	一般	外務本省	国際分担金其他諸費	国際機関等を通じた経済・社会分野に係る国際貢献に必要な経費	839,975	918,362		
	A	3								
	A	4								
	小計						13,759,335	12,674,759		
対応表において◆ となっているもの	B	1								
	B	2								
	B	3								
	B	4								
	小計									
対応表において○ となっているもの	C	1					<	>		
	C	2					<	>		
	C	3					<	>		
	C	4					<	>		
	小計						の内数	の内数		
対応表において◇ となっているもの	D	1					<	>		
	D	2					<	>		
	D	3					<	>		
	D	4					<	>		
	小計						の内数	の内数		
合計						13,759,335	12,674,759			

政策評価調書（個別票①-3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

政策名		国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献			番号	17		
事務事業名	整理番号	予算額（千円）			見直し額（A） （B）+（C）-重複	うち政策評価 結果の反映に よる見直し額 （B）	うち執行状況 の反映による 見直し額 （C）	政策評価結果又は執行状況の要求への反映内容
		22年度 当初 予算額	23年度 要求額	増減				
合計								

政策評価調書（個別票②）（政策評価書要旨）

評価実施時期：平成 22 年 8 月

担当部局名：外務省欧州局アジア欧州協力室

政策名	国際機関を通じた経済及び社会分野に係る 国際貢献	番号	17
政策の概要	（平成 22 年度については、アジア欧州財団拠出金を取り上げて評価することとした。） アジア欧州財団 (ASEF) は、アジア及び欧州の 45 か国・機関が参加するアジア欧州会合 (ASEM) の唯一の常設機関であり、アジア・欧州間の相互理解の増進のため、知的・文化・人物交流及び広報の各分野における活動を組織・支援している。この ASEF の活動は、ASEM 参加国の拠出金（拠出が道義的・政治的義務である「事務局運営経費」及び任意拠出としての「プロジェクト経費」）により運営されており、我が国も ASEF 設立以来継続的に拠出している。		
政策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等	【評価結果の概要】 * 国際機関への分担金・拠出金の支払いをはじめ、我が国は加盟国としての義務と責任を誠実に果たしてきた。右は、各種理事会や委員会におけるメンバー選出の際、継続して多くの国から支持を集めて選出され続けていることに示されているように、国際社会の我が国に対する信頼の向上に寄与してきている（以下の各論については、一例としてアジア欧州財団拠出金について説明する。） （総合的評価） ASEF が知的、文化的、人的交流プロジェクトを通じて、多様な文化的・社会的背景を有するアジアと欧州の相互理解の促進という ASEM の目的の実現に貢献してきた実績は、ASEM 首脳会合においても高く評価されており、我が国は、ASEF への拠出及び執行委員会等への委員の輩出により、ASEF の運営に関し高いプレゼンスを確保した。 （必要性） 事務局運営経費：2006 年の第 6 回 ASEM 首脳会合において、ASEF の事務局運営経費への拠出を各国の道義的・政治的義務とし、A～C の 3 段階から選択して拠出する拠出方式（通称「ヘルシンキ・フォーミュラ」）が承認された。我が国や欧州の主要国のみならず、中国、韓国、シンガポール等 13 か国・機関が最高のレベル A の拠出をしており、我が国も引き続きその国力にふさわしい貢献が求められている。 プロジェクト経費：ASEF のプロジェクト経費は ASEM 参加国・機関の任意拠出金で賄われていることから、我が国のイイマーク事業の実施を通じて ASEM プロセスにおける我が国の関与を示し、強い発言力を確保するためにも、継続的な拠出が極めて重要である。 （効率性） 事務局運営経費：ヘルシンキ・フォーミュラ導入以来、ASEF の事務局運営経費に関するレベル別の国・機関数は、それぞれレベル A が 13、レベル B が 14、レベル C が 15、特別割引が 3 で一定している。2010 年の場合、事務局運営経費総額に占める 1 か国当たりの負担割合は最高のレベル A でも 3.6% であり、比較的低い拠出割合で高いプレゼンスを示すことができる。 プロジェクト経費：ASEF 事業は ASEM の 45 か国の人々を一堂に集めて実施するため、我が国のイイマーク事業実施を通じ、一度に数多くの国々に我が国の政策や文化について理解を深めさせることができる。		

（有効性）

事務局運営経費：レベル A の拠出は、ASEF に対する高いレベルの貢献を示すことができ、ASEM プロセスにおける我が国の立場を強化できる。東アジア共同体創設に関わる外交努力がアジア側諸国間において活発に行われている中、特に、日本が EAS 促進を主導している側面で、地域統合努力の大きな柱であり ASEAN 諸国の関心が高い ASEM に対して、我が国が積極的な態度を示すことは、アジア側諸国、特に東アジア地域協力の牽引役を担っている ASEAN 諸国に対して好印象を与える。これは、我が国の東アジア地域政策にも有効である。

プロジェクト経費：我が国の関心の高いテーマ（環境、人権、ポップカルチャー等）についての事業を我が国のイヤマール事業として行うことは、アジアと欧州の国々に向けて、我が国の政策や文化について広報する機会として有益である。

（反映の方向性）

引き続き国力にふさわしい貢献が求められていることから、ASEM プロセスにおける我が国の関与を示し、強い発言力を確保するためにも、事務局運営経費にレベル A の拠出を行うとともに、プロジェクト経費へも継続的な拠出を行う。

【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】

（目標）

我が国の経済・社会分野での国益を保護するために、国際機関に対して拠出金を供与すること。

（目標の達成状況）

我が国が、主要財政貢献国の一つとして拠出金を供与することにより、ASEF における高いプレゼンスを示しつつ、ASEF によるアジア欧州間の文化、知的及び人的交流促進事業の実施に貢献できた。ASEF のこのような取組み及び我が国による ASEF に対する貢献への評価は高く、ASEM プロセスにおいて日本の立場を強化することに役立っている。

関係する施政方針演説等内閣の重要政策（主なもの）	施政方針演説等	年月日	記載事項（抜粋）
	特になし。		